

OB会第4回総会の報告と2012年度の計画

今回のOB会便りでは、第4回総会、前川さんの講演、水上旅行の様子等について紹介します。OB会第4回総会は9月10日（土）、昨年引き続き入谷の医療労働会館で30名が参加（厳しい残暑続きで数名の方が欠席—お互いに体調にはお気をつけください）—世話人と早めに到着した小島・藤橋さん等で会場設営やコーヒー・ケーキの買出しなどを準備し定刻の14時～開会しました。

◎参加者一同、元気な再会を喜び合う！

最初に、高田京子世話人が開会挨拶をし、高橋博副会長の司会でテキパキと進行。古泉さんが「今年は大震災や大洪水など大変な年だったが、お互いに元気に再会出来たことを喜び合いたい。

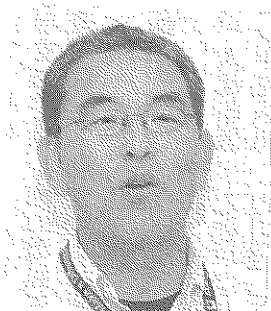
被災地支援については現地の物産を買ったり使ったりして、支援のとりくみを出来るだけ強めて行きましょう。

1年間の活動を振り返り、これからの方針についても率直な討論を」と会長挨拶を行いました。



◇東京医労連OB会第4回総会の様子

＝前川昌人さん—「震災復旧・地域の課題は何か」と題して講演＝
講演では、参加者一同、宮古・田老地区の生々しい被災状況と3月11日以降の前川さんの奮闘に接し、今日の日本の中心的な課題について生きた情勢と課題を学ぶことが出来ました。



・いわく、3月11日当日は怖いほどの地震、あっと云うまに何もかも呑み込んでいった津波・高波によって集落も漁港も破壊、宮古全体も田老地区も90%以上の漁船が流されるなど壊滅的打撃を受けたこと。・狭い災害対策法の範囲を出ない政府方針では、船・漁具が流されても家が残っていれば義援金は1円も出さないと。操業にあたっては当初は共同作業でなければ補助金を出さない姿勢だったとのこと。また漁港の復興の為には港内がれきの撤去～、防波堤や岸壁、クレーン、製氷工場などの一体的な再建が必要なこと。とにかく補助施策の具体化のテンポが遅く、廃業を考えている方も多く、一日も早い支援策が求められていると。ある漁師の方は“70歳にして生まれた時に戻ってしまった、それでも食べて行かなければ行けない”、狭い仮設住宅のお婆さんは“だまって津波

にのまれればよかった”と悩んでいる等々・・・、一百人百様の「被災物語」があるとのことなど。皆さん、「この国のあり方」を考える大変良い機会になったようです。

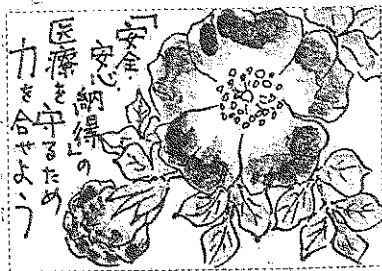
休憩時間は皆さん、コーヒとケーキを美味しくいただきながら（中にはビール党もいたようですが）、一息入れて感想を語り合っていました。

□事務局（重野氏）の活動報告と方針提案、会計・役員案の提案を満場一致で確認！

・いわく昨年は9月10日第3回総会を35名参加で元気にスタートしたが、3・11大震災と原発事故で一転、大変な年を皆で乗り切ってきた感じ。被災地支援ではまず現地の仲間の安否を確認、作成したばかりの「会員連絡ルート」を活用して多くの会員に無事を知らせることが出来たこと。

3月26日の懇親会での意思統一をもとに①仲間への支援カンパ②看護署名と結んだ支援行動③東北現地へのボランティア活動等にとりくんだこと。さらに米軍

普天間基地問題では「辺野古への新基地反対」「徳之島への基地移設反対」で署名や檄、カンパを届け、地元住民団体、自治体関係者から感謝されるなど社会的連帯を広げたこと（塚越さんからは、東京平和委員会でも素晴らしいと評価があった、自分も平和運動を続けるとの報告あり）。会員は今年110名になったが特徴は退職



後数年経て入会した方が多かったこと。民主党・野田どじょう内閣の国民いじめの攻撃が強まって来る、会員の交流を豊かにし医労連活動に参加した各組合役員経験者に入会を呼びかけ、震災支援、くらしや平和を守る連帯・共同を広げよう。・なお慶弔規定を新設し、会員が亡くなった時は弔電をさし上げご冥福をお祈りすることを決めました。

○世話人体制は、北海道に引っ越した田中千恵子さんと体調関係で茂原英子さんが退任し、古泉会長を始め14名を確認。副会長では宮本武子さんに代わり高田京子さんが就任しました。

○また東京医労連(斎藤書記次長)からは「昨秋からのいのちを守るキャラバン行動、震災支援と各種統一行動で「看護師労働条件改善」の厚労省通達を引き出した。今年はこの具体化のため地域キャラバン行動ー本日の有楽町駅頭宣伝を始め東京都交渉や10・20いのちを守る国民集会等にとりくみます。OB会の協力よろしくをお願いします」と連帯挨拶をいただきました。

○武藤勝副会長が「来年も出来るだけ多くの方が元気に再会しましょう！」と閉会挨拶を行い、最後に参加者全員で記念写真をとり総会を終了。懇親会(入谷駅近くの「三富」)には27名の方が参加。塚越さんの音頭で乾杯を行い、全員の方が近況を含め元気に報告し交流し合いました。

いわく体調や家族のこと、定年後も週2～4日元気に働いている、年2～3回海外旅行を楽しんでいるとか、第2の職場や地域で年金者組合や新婦人、さらに平和運動や社会保障、政治革新のために活動している等々、それぞれ体力や条件をふまえながら頑張っているなど盛り上がりました。*総会の様子については後ろの高田新副会長始め5名の方の感想文も参照して下さい。



◇2011年～2012年のとりくみ(予定)

- ①看護署名や被災者支援、くらし・平和を守るなど連帯・共同のとりくみを進めます。
- ②第5回総会は2012年9月頃に集まりやすい場所を検討し、7月頃案内します。
- ③花見と食事懇親会ー桜開花を考慮し4月7日(土)13時半～於国立、4千円会費で予定します。
- ④東京医労連大会開催地めぐりの第3回旅行は2012年10月中旬～11月頃で検討します。

『自惚れてはいけない』－東京医労連OB会会長 古泉秀夫

人類は火の使用によって地球上のあらゆる場所に居住区を拡散し、様々な環境を作り出し、文明への第一歩を踏み出したと言われている。人が火を手に入れた起源は、落雷から生じたものか、森林における自然発火によるものを手にしたと考えられている。人が火を手に入れたのは142万年前で、ケニア、アフリカの原人が、火を使用した痕跡が発見されたと云われている。

人は長年に亘り火を扱い、火を完全に制御してきたと考えてきたのではないか。家庭で好きなように火が使える、蒸気機関車や火力発電や、火を自由に使用して生活の便宜を得て来た。従って火は完全に制御したと考えてきたが果たしてどうか。

手元にある平成15年の出火件数は56,329件で、これは大凡1日あたり154件、約10分に1件の火災が発生したことになるといわれている。死者数は2,254人、1日当たり6、2人である。人が火を完全に制御しておれば、このようなことはないはずである。140万年を超える長きに亘り、付き合いの長い火でさえ、管理できないでいる。ましてや最近付き合い始めた原子の火を制御したと考えることが横柄だといえる。

原発の安全性を強調してきた御用学者諸氏は、福島騒動を見てどうおっしゃる気なのか。人間自惚れてはいけない。我々は地球の片隅にただ住まわせて戴いているだけだ。

《事務局からの連絡とお願い》

- ・看護師等の労働条件改善に向けた「新看護署名」を来年4月までにご協力をお願いします。
- ・総会に出席出来なかった方には「総会議案書」「メッセージ集」と「会費のお願い」等を同封します。会費の納入とともに、出来る方はカンパにご協力をお願いします。
- ・親睦交流を豊かにするため、近況報告や会への要望・意見などにご協力ください(事務局まで)。

OB会の連絡・問い合わせ先→事務局・重野長之 電話・FAX042-575-4640

OB会第4回総会参加者の感想 (敬称略でご覧ください)

“会員の相互交流と連帯・共同を大事にして”－OB会副会長 高田 京子

今年の総会は残暑厳しい日が続き、以前の「不快指数」という言葉が今や「熱中症」「酷暑」と変わって使われるなか・・・、体調を壊して何人かの方が欠席されましたが30名の方が参加してくださいました。昨年の総会は亡くなられた方への黙祷で始まりましたが、今年は全会員揃って総会を迎えることが出来ました。何よりも喜ばしいことです。

恒例になった学習・講演会は、東日本大震災で被災された前川さんが、多忙ななか時間をさいて参加され、「震災復旧・地域の課題は何か」と題して、宮古・田老地区の生々しい状況と3月11日以降の半年間にわたる苦節の体験を語ってくださいました。

3月11日当日は、立ってられないほどの地震と、あっと云うまに大変な高波が押し寄せて何もかも呑み込んでいったこと。漁港が壊され、宮古市全体で漁船2740隻、田老地区でも963隻の90%以上が流されるなど壊滅的打撃を受けたこと。いま田老漁協では500隻発注しているが、全国的に月々



400隻程度しか建造されていない、いつ手元に届くのか？見通しが立たないこと。政府は船・漁具が流されても、家が残っていれば義援金は1円も出さないと。狭い災害対策法の枠を一步も出ず、操業にあたっては当初は共同作業でなければ補助金は出さない姿勢だったとのこと。アワビ漁の場合―漁具を揃えるのに軽く百万円を超えると云うのに・・・、とにかく具体化のテンポが遅く漁師や関係者をいらつかせている。廃業を考えている方も多く一日も早い支援策が求められていると。“70歳にして生まれた時に戻ってしまった、残ったのはローンだけ”と語る漁師さん、仮設住宅に入っているお婆さんは“だまって津波にのまれればよがった”と・・・、百人百様の「被災物語」があるとお話し。また漁業は一体的再建が必要で、港内がれきの撤去～防波堤や岸壁、製氷工場などの再建が・・・、それなしには元の操業には戻れない等々。参加者一同、生々しい報告を集中して聞きました。漁業組合のこと、支援物資配達や復旧ボランティアの活動のことなど、前川さんの課題を正面から切り開こうと頑張っている姿勢に、皆さん深い感動を覚えました。今年の方針では、くらし環境が厳しくなるなかで、仲間を増やしネットワークを広げること、会員相互の交流や共同、震災被災者支援・復旧復興と看護行動支援等を一体にとりくんで行くことなどが提案されています。私は宮本先輩の後を受けて、OB会副会長を努めさせていただくことになったのですが、前川さんの「粘り強い精神力」に学んで、相互交流＝絆を大事に、医療の問題や平和の問題などに、世話人や会員の皆様と力を合わせて取り組んで行きたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



◇楽しかったOB会総会―〈全医労東京地区 小島 正雄〉

現役時代のおなじみの皆さんにお会いできて大変楽しかったです。それぞれ個性ある面々が、仕草、話し方、話の内容等に至るまで、そのまんまで、元気な姿に接することができ、何か「活動をやらないといけない・・・」という気分させられてしまいました。前川さんの話はリアルで良かったですネ。こんなにマスメディアが発達しているのに、被災者の本音が伝えられていず、現地の状況を聞いて、改めて社会のゆがみを思い知るとともに、私達がやるべきことは何かと考えさせられました。2次会では全員が発言し楽しく交流が出来ましたし、大成功の総会ではなかったでしょうか。10月の旅行でも皆さんに会えるのが楽しみです。

◇OB会(第4回)総会に始めて参加して―〈慶応四谷支部 高田フミエ〉

9月10日当日は、時間に制約のない私は寺町の散策を楽しもうと、御徒町駅に下りて4つの寺を見て廻って会場へ。入谷に到着―会館が新しいのも気分が良い。会場に入ると大勢の方が着席されていた。少し圧倒されるもあの方この顔懐かしい。

最初に前川さんの講演・震災報告があり、東京の仲間がたくさん訪問してくれているが、田老地区の現場を見た人は言葉が出ないと云う。(前川さんは)当日たまたま高台にいたが、地震は立ってられない状況、津波は20m位の高さまで海が盛り上がり破壊力は想像もつかない程だった。

3月11日から180日が経過したが、集落ではガレキが撤去されただけの荒野が広がっている。あるおばあさんは「黙って津波にのまれればよがった！」とボソッと云っている。この方になんとか希望の光を！と思う・・・、海辺の集落が元気になるのは果たして何年先になるのかと。ひとり一人に被災の物語があり、命が助かって良かった！と云う事実と、家屋が流された人以外は、船や漁

具(網など)が流されても国からの義援金は出ないそうである(ひどい!)。そうした中で前川さんは保守的な町の中で、したしたと地域をまとめて信頼は絶大なものになりつつある。田老地区での被害は約75億円(100年分のもうけ分に相当)を一瞬に失ってしまったが、地域が生き残るために、皆で国にも働きかけて頑張るとの決意が込められていた。

8月11日、19時のNHKニュースを見ていたら、お精霊さんを供養している前川さんの風貌が映し出された(NHKも、もっといい男がいただろうに)。私は思わず正座をし涙が流れていた。前川さんは世話役で走り回りすっかり地の人になっている。頑張っている人に“頑張ろう日本”ってなんだろう。国(おかみ)が言う通りに要求も出さずに「はいはい」と我慢するのよってことかな?、“国は具体的な支援策を指し示せ!”と叫びつつ、東京にいる私はちょっぴり後ろめたい。

休憩時間にコーヒ・ケーキが出された(普段の私はビールの方が良い!ですが)。今日は寺廻りをして来たため身体が甘味を欲しており、役員の心配りに感謝し美味しくいただいた。後半では活動報告、方針提案、会計報告と質疑討論が行われ時間内に終了した。(私は都合で残念だったが)2次懇親会でもきっと盛り上がった事だろう!。白衣を脱いでもうすぐ2年になる。総会に参加された方々も終生活動される人達であろう。私も不正を見抜ける感性を磨きつつ、年金者組合の役員をしたり、地域で①楽しく②ゆっくり③会議・行動3:おしゃべり7のペースでまっすぐ歩きたいと考えている。懐かしい面々に出会えてパワーアップした一日でした。今後ともよろしくお願ひします。

◇OB総会初参加に思いをめぐらせてー〈全医労村山 藤橋 博〉

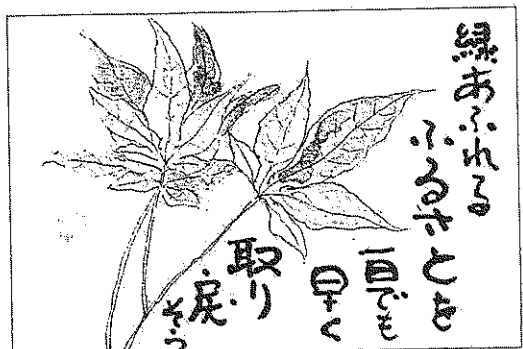
OB会は初めての参加であり、モーターバイクで(武蔵村山から入谷までは90分かかった)早めに出かけ、会館には30分前に着いてしまいました。総会会場の医療労働会館は新しく立派な建物で、やや東方向にはスカイツリーが手にとるように良く見え二重に感激。会館内に入ると玄関ロビーには最新の医療ニュースが掲示され、少しゆったり出来る空間があり感じ良かったデス。

古泉会長の挨拶、前川さんの講演ー震災現地の生の報告、事務局の活動経過や方針を聞き勉強になりました。大震災、大津波、原発事故ー東北の人達の困難さ、この復旧・復興が厳しくとも国民みんなで頑張る行かなければならないこと、そうした中で災害に強い町作りには医療・福祉の役割が増しており、さらなる運動の発展が望まれます。懇親会ではみなさんの元気な報告が聞け、古泉さん始め北川、小島、重野さん・等々、現役時代の懐かしい方々ばかりで楽しかったデス。

大震災や原発事故の被害など日本の苦しみや悲しみ、運動が世界から注目されています。財界やアメリカにおもね、肥えて汚れた野田どじょう?内閣(愛らしいどじょうに全く失礼ではないですか!)の危険性をしっかり見据え、本者のどじょうや子供たちがすくすく育つことが出来るよう、OBになっても励んで行かなければと気持ちを新たにしました。ありがとうございました。

◇一日も早い復興を願ってー〈飛鳥 中小路かつ子〉

今年はことの外、暑さが厳しく町田からは入谷は遠い為迷っておりましたが、前川さんが講演に来られるとのことで、是非とも東北・岩手の震災の実状などをお聞きしたいと思いで出席しました。会場については常連の女性の顔が見えず心細かったのですが、市民病院の関口さんが来られて心強く思いました。皆さんほぼ揃った所で前川昌人講師の登場となり、日焼けして若返った様に感じまし



た。宮古・田老地区の現状について生々しい報告ではガレキは片付いたものの、浜辺の住宅地跡は雑草に覆われ荒野になっていること、仕事が無く収入も無い、家が無事な人は国からの義援金は一円も出ず、生業である魚業が出来ず、復興出来るのか？、何年先になるのか？など、つらい話がありました。そんな中で明るいお話もありました。残った僅かな船で皆さんで協力して出漁しワカメ・コンブの種付けが出来たこと、ウニやサンマもいずれ皆さんの食卓に届くでしょうと云うお話もありました。支援の手が足りない中で、自分達で協力して出漁を始めた東北の人達の力強さを感じました。民主党・岡田幹事長が宮古視察に訪れた時の話も紹介されました。県や漁協の幹部の方たちが集まり現在の窮状を訴えたそうです。一通り訴えを聞いた後の岡田幹事長の言葉は「帰って良く伝えます」の一言だったとか、何人かの方が「貴方は幹事長でしょう」「そんな返事しか出来ないのか」と詰め寄ったと、私も強い怒りを覚えました。懇親会には当初体調を見てと迷っていましたが、総会で元気を貰い参加しました。参加者の皆さん全員が発言し楽しく交流が出来ました。前川さんも明るく元気そうで本当に強さを感じて、私達が勇気を戴きました。本当にありがとうございました。

◇水上温泉～谷川岳・天神平を楽しむ 第2回旅行会の様子と参加者の感想

10月17日(月)～18日(火)、“東京医労連大会開催地－思いでの地めぐり”の第2弾を水上温泉・谷川岳で行いました。男性16名、女性7名の総勢23名、58歳(小島さん)～83歳(塚腰さん)まで幅広い方が参加。現役時代には出来なかった温泉街から水上駅へ、昼食後は「利根川遊歩道」へのゆっくりとした散策。藤屋ホテルが倒産していたり寂しい面もありましたが駅前商店街は頑張っていました。紅葉が素晴らしい利根川縁のお風呂を楽しんだ後、

18時からは記念写真を無事に撮り終え夕食交流を開始。お酒や食事を楽しみ、何よりも皆さんの元気な近況報告が弾んでいました。2日目も好天に恵まれ、谷川岳は雲が切れ素晴らしい頂を見せてくれました。流石に日頃お行いの良い善男、善女を山の神、空の神はちゃんと見ていてくれました。会計～買だし、写真係、山のリーダー、各部署を担当いただいた皆さんご苦労様でした。



＝OB会旅行2回目は『水上と天神平の旅』－ 癌研労組・武藤 勝＝

今年2回目となる“東京医労連大会開催地－思いでの地めぐり”好天に恵まれました。

東京駅には体調を快復した山本美佐子さん(東京医大)が一番に到着、10時30分には全員が集合、10時52分発「たにがわ」に乗車。東京駅に集合したのは19名、今年の日医労連定期大会で執行委員長を退任され、お母さんの介護で北海道に帰られた田中千恵子さんも15日(土)に奈良県医労連の労働学校で講師を行い、今回のOB会旅行に参加してくれました。高崎からは長野県から参加した元健生会の上原忠夫さんが乗車。12時09分に上毛高原着、事務局の交渉のおかげで宿の迎えのバスが来ており一路水上温泉へ、宿は「ひがきホテル」。荷物をホテルに預け、水上駅へゆっくりと散策。昼食は駅前のソバ屋へ。週明けの昼下がりの大勢のお客、菅原さんが「景気はどうですか？」と聞くと、「大変ですがなんとか家族皆で頑張っております」と大オカミさん？、何とも愛想が良い。古泉さん、田中さんを始めビールで気分も上々となり、「利根川遊歩道」へ、せ

せらぎの音を楽しみながら思い思いにホテルへ。夕食まではタプリの時間、一服した後ゆっくりの風呂、利根川の紅葉を楽しむ。古泉会長は部屋に入り込んだ時にギックリ腰になってしまうハプニング。夕食では古泉会長の挨拶、塚腰さんの音頭で乾杯と進み、その後全員が近況報告。5月に那須塩原に移住した嘉部さん（全医労）は放射線技師の経験を生かして地域で放射能汚染測定の実験者をしていると報告、流石に元議員にしてマジメ人間。芸達者な糰谷さんがご主人の入院であいくの欠席となり、代役の重野さんの詩吟が飛び出すなど盛り上がりました。

〈紅葉真っ只中の天神平、360度の展望〉

天神平は40年以上前に、私が東京に出て来て初めて初めてスキーをした場所、谷川岳もガン研職場の先輩と夜行日帰り何度となく昇った思いのある山です。皆で9時30分水上駅発のバスで谷川岳ロープウェイ乗り場へ、紅葉真っ只中をロープウェイは進み、リフトに乗り換えて天神峠へ。天気は快晴、展望台では谷川岳は雲が切れて見事でした。アルピニストの高橋さんも“谷川岳がこんなに晴れるのはめずらしい”と少々興奮気味。向かいの白毛門や朝日岳、遠くの至仏山と360度のバッチリの展望を満喫出来ました。帰りの上毛高原駅では、医労連で来た時と同じコースの「天丸そば」で遅い昼食を食べて、2回目の“思いでの地めぐり”は無事終了となりました。皆さん来年はより大勢で、“思いでの地めぐり”OB会旅行を楽しみましょう。



＝水上の街にふれ、利根川・天神平を楽しむ－結核予防会・関マサ子＝

水上温泉は、東京医労連の大会や学習会等で何度か訪れたが、いつも開始時間ギリギリに到着、夜遅く迄学習会(?)があり、会議が終われば直ぐに電車に乗って帰宅の繰り返しで、水上がどんな街なのかどんな名所があるのか分からないでいた。今回は観光が出来るかもと期待して参加しました。遅刻する者もなく定刻に東京駅を出発。上毛高原駅からは送迎バスでひがきホテルへ。2時チェックインには早いので荷物を預け皆で街中へ出て昼食。その後水上駅前から利根川遊歩道をゆっくり歩き川のせせらぎを聴き色づき始めた周りの景色を眺めてホテルに戻る。その後私は一人で諏訪狭まで歩いた。途中山岳資料館に立ち寄り谷川岳や利根川源流の姿などのビデオを見て、登山道具の歴史等を見学した。諏訪狭は遊歩道が整備されていて、与謝野晶子の記念碑もあり、コスモスや色づき始めた紅葉を楽しみながら笹笛橋まで歩いた。水上駅から笹笛橋まで歩いたのだがシャッターがおりた店が多く、廃業したホテルも幾つか見られ、庭から玄関先まで雑草が生えていて心が痛んだ。土産店はあったが、生活用品等など住民はどこへ買いに行くんだろう?、と思ってしまう。18時から夕方到着された方も加わって夕食懇親－ほとんどの方が還暦を過ぎておられるがみんな明るく元気に定年後をエンジョイしている報告を聴いて流石だなあーと感心する。本当に楽しい交流会でした。2日目は用事で帰った方を除いて19名で天神平へ向かう。好天に恵まれ、きっと山の上も晴れているだろうと期待が膨らむ。9時半に水上駅からバスに乗り、ロープウェイ土合駅へ、ロープウェイで天神平へ、



途中の紅葉が見ごろで素晴らしかった。さらにリフトに乗って天神峠へ。峠の紅葉は終わりかけていたが周囲の山々は太陽に照らされて輝いていた。さわやかな冷たい空気がおいしい、山の美味しい水もペットボトルにゲット。四方の山々をカメラに納めて11時20分下山、13時過ぎ上毛高原駅着、昼食のソバ屋が行列になっていて電車の時間に間に合うか心配だったが何とか間に合った。

つまずいて腕を擦りむいた人、天神峠にせっかく買ったお土産を忘れてしまった人など小さなトラブルはあったけど、全員予定通り帰宅出来て良かった。企画から準備、旅の終了まで幹事の皆様本当にご苦労さまでした。深く感謝致します。皆さん来年もご一緒しましょう。

“期待通りの楽しいOB会旅行でした” — 元健生会・上原 忠夫 —

私は1980年前後—遠い昔に東京医労連執行委員を3期努め、82年に健生会から同じ民医連の長野県中央病院に転出、単組や県医労連の役員を経て4年前に退職、今は体調も快復し元気です。

東京医労連OB会にもすぐ入ったのですが行事には今回が初参加でした。OB会報を拝見する度に、「行ってみたい」「行ってみたい」と思っていた願いが叶って今回の参加となりました。昔一緒にオルグをやっていた前川さんに合えなかったことは残念でしたが、久しぶりに「医療の闘志」の皆さんとの楽しい旅を満喫することができました。

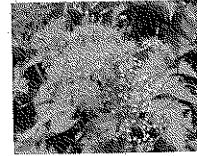
水上駅前のソバ屋でのみなさんとの昼食、土産屋の買い物や散策—昼間からビールも少々入り、気分も浮き浮きと、利根川べりの散策信濃路・千曲川のほとりを歩いているかのようでゆるゆるとのんびりも出来、なんとも言えない気分でした。夕食懇親も皆さん元気でバラエティで、思いを込めた近況報告に酔いしれました。とりわけ高橋副会長の—2大政

党による閉塞した社会に立ち向かい、労働運動の発展、仲間増やしをめざす新宿区労連議長としての挨拶や報告は心強く、私も長野県上田地区青木村で、くらしや復興支援に“引き続き頑張るゾー”と思いを新たにしました。高橋さんは、私の報告の時にも“赤旗「読者の広場」—“100円貯金で健康づくり” —の投稿記事を読んだゾー”の掛け声をかけてくれました。

重野さんの詩吟、特に「田原坂」は情感がこめられていて、愛妻のミヨちゃんにも聞かせてあげたい位でした（夫婦どうしのつきあいなものですから）。病気を克服しても、階段でころぶ、こけてもひるまぬ重野さんに幸せあれ！。健生会から、浜本さん、上條さんも参加—懐かしい面々にも会えました。楽しい旅、夜の宴会を盛り上げて下さった皆さんに感謝しつつ、次の出会いに心が飛んでいます。



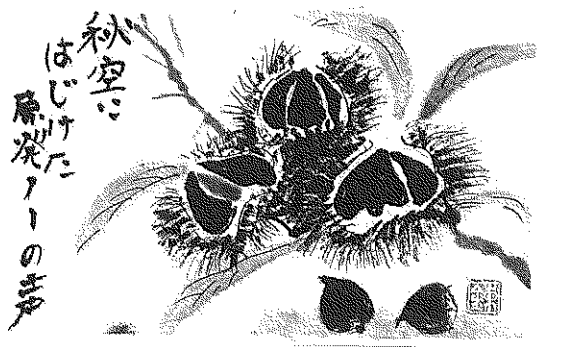
トリカブト
開花時期：7月～8月
沢筋などの比較的湿気の多い場所を好む。斜面を鮮やかに彩る様は見事でも、全草に毒性があるので食べてはいけません。



シモツケソウ
開花時期：7月～8月
日当たりが良く乾燥した草地を好む花。鮮やかな色で花の盛りは実に見事。天神尾根、山頂付近にも見られる。



ホソバヒナウスユキソウ
開花時期：7月～8月
残念ながら天神平では見られないが、谷川岳と尾瀬の至仏山、笠ガ岳の蛇紋岩地でのみ生息する希少な花。



長野県青木村 上原忠夫 拜